

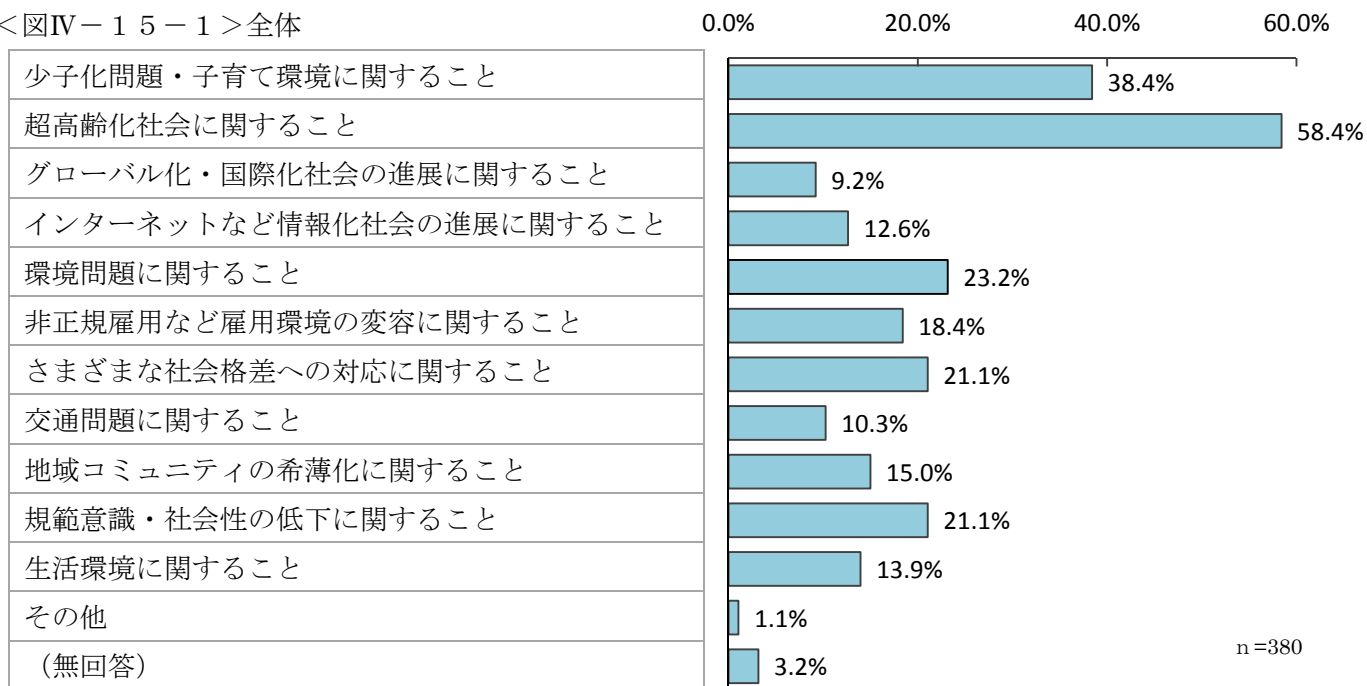
15. 生涯学習について

(1) 取り組む必要性が高いと考える「社会的課題」

◇ 「超高齢化社会に関すること」が6割弱

問35	近年の生涯学習・社会教育においては、「生きがい」や「自己の充実」につながるような「趣味・教養」に関する学習だけではなく、著しい社会の変化に対応しながら、豊かに生活をしていくための「社会的課題」に関する学習機会の充実が求められています。生涯学習センターなどの講座において取り組む必要性が高いと考える「社会的課題」について選んでください。 (〇は3つまで)	n=380
1	少子化問題・子育て環境に関すること	38.4%
2	超高齢化社会に関すること	58.4%
3	グローバル化・国際化社会の進展に関すること	9.2%
4	インターネットなど情報化社会の進展に関すること	12.6%
5	環境問題に関すること	23.2%
6	非正規雇用など雇用環境の変容に関すること	18.4%
7	さまざまな社会格差への対応に関すること	21.1%
8	交通問題に関すること	10.3%
9	地域コミュニティの希薄化に関すること	15.0%
10	規範意識・社会性の低下に関すること	21.1%
11	生活環境に関すること	13.9%
12	その他	1.1%
	(無回答)	3.2%

<図IV-15-1>全体



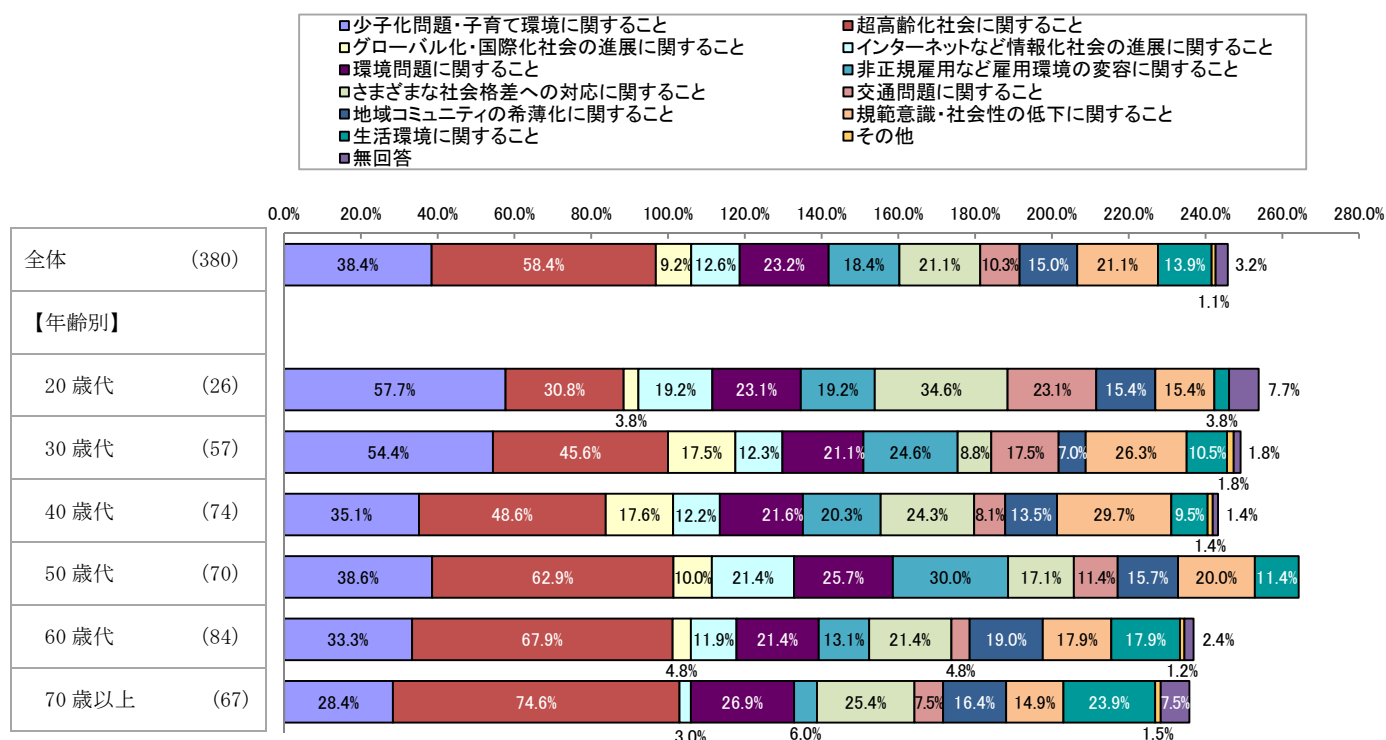
取り組む必要性が高いと考える「社会的課題」については、「超高齢化社会に関すること」が58.4%と最も多く、次いで「少子化問題・子育てに関すること」が38.4%、「環境問題に関すること」が23.2%と続いている。(図IV-15-1)

年齢別でみると、「超高齢化社会に関すること」については年齢が高くなるほど必要性を感じ、<70歳以上>が74.6%で最も多かった。一方「少子化問題・子育てに関すること」については、年齢が低いほど必要性を感じている傾向にある。(図IV-15-2)

【表：年齢別】

選択項目		少子化問題・子育て環境に関すること	超高齢化社会に関すること	グローバル化・国際化社会の進展に関すること	インターネットなど情報化社会の進展に関すること	環境問題に関すること	非正規雇用など雇用環境の変容に関すること	さまざまな社会格差への対応に関すること	交通問題に関すること	地域コミュニティの希薄化に関すること	規範意識・社会性の低下に関すること	生活環境に関すること	その他	無回答	合計
		全体 n=380	人数	146	222	35	48	88	70	80	39	57	80	53	4
	構成比	38.4%	58.4%	9.2%	12.6%	23.2%	18.4%	21.1%	10.3%	15.0%	21.1%	13.9%	1.1%	3.2%	245.8%
20歳代 n=26	人数	15	8	1	5	6	5	9	6	4	4	1	0	2	66
	構成比	57.7%	30.8%	3.8%	19.2%	23.1%	19.2%	34.6%	23.1%	15.4%	15.4%	3.8%	0.0%	7.7%	253.8%
30歳代 n=57	人数	31	26	10	7	12	14	5	10	4	15	6	1	1	142
	構成比	54.4%	45.6%	17.5%	12.3%	21.1%	24.6%	8.8%	17.5%	7.0%	26.3%	10.5%	1.8%	1.8%	249.1%
40歳代 n=74	人数	26	36	13	9	16	15	18	6	10	22	7	1	1	180
	構成比	35.1%	48.6%	17.6%	12.2%	21.6%	20.3%	24.3%	8.1%	13.5%	29.7%	9.5%	1.4%	1.4%	243.2%
50歳代 n=70	人数	27	44	7	15	18	21	12	8	11	14	8	0	0	185
	構成比	38.6%	62.9%	10.0%	21.4%	25.7%	30.0%	17.1%	11.4%	15.7%	20.0%	11.4%	0.0%	0.0%	264.3%
60歳代 n=84	人数	28	57	4	10	18	11	18	4	16	15	15	1	2	199
	構成比	33.3%	67.9%	4.8%	11.9%	21.4%	13.1%	21.4%	4.8%	19.0%	17.9%	17.9%	1.2%	2.4%	236.9%
70歳以上 n=67	人数	19	50	0	2	18	4	17	5	11	10	16	1	5	158
	構成比	28.4%	74.6%	0.0%	3.0%	26.9%	6.0%	25.4%	7.5%	16.4%	14.9%	23.9%	1.5%	7.5%	235.8%

<図IV-15-2>年齢別



(2) 早急に実施すべき具体的な「学習テーマ」

◇ 具体的な意見を寄せたのは女性が約6割

問36 問35で選んだ社会的課題に関して、生涯学習講座として早急に実施すべきと考える、より具体的な「学習テーマ」はありますか。

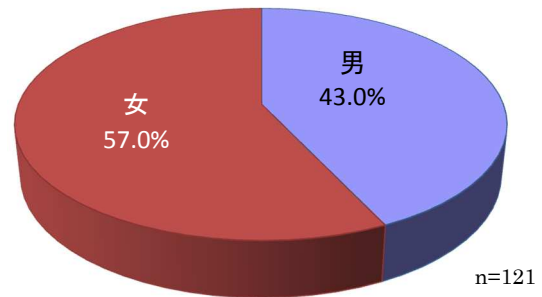
回答あり

n=121

<図IV-15-3> 意見を寄せた件数(性別)

《具体的な意見の回答状況(性別)》

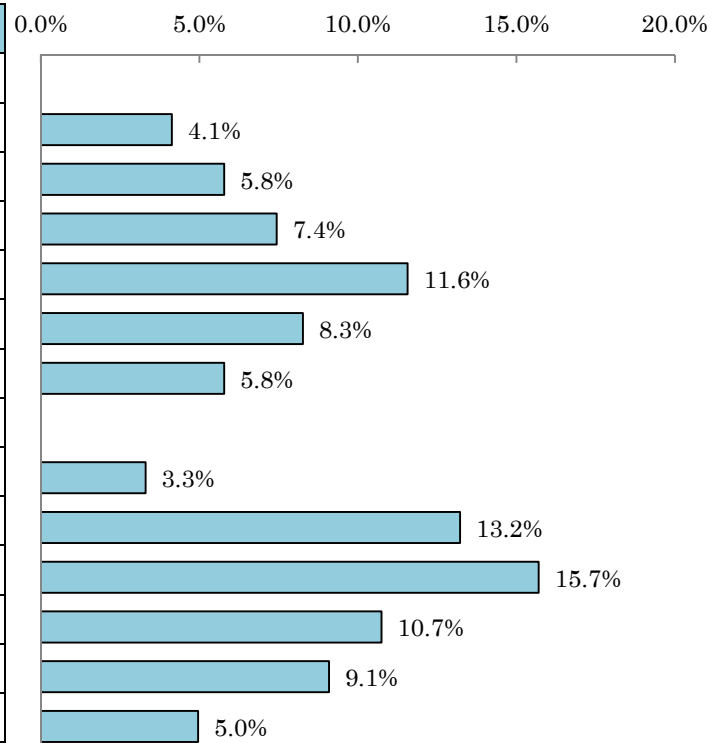
	基数	構成比
1 男	52	43.0%
2 女	69	57.0%
合計	121	100.0%



<図IV-15-4> 意見を寄せた件数(性・年齢別)

《具体的な意見の回答状況(性・年齢別)》

性別	件数	比率
男性計	52	43.0%
20歳代	5	4.1%
30歳代	7	5.8%
40歳代	9	7.4%
50歳代	14	11.6%
60歳代	10	8.3%
70歳以上	7	5.8%
女性計	69	57.0%
20歳代	4	3.3%
30歳代	16	13.2%
40歳代	19	15.7%
50歳代	13	10.7%
60歳代	11	9.1%
70歳以上	6	5.0%
計	121	100.0%



早急に実施すべき具体的な「学習テーマ」について、意見を寄せた件数を性別にみると、男性が43.0%、女性が57.0%で女性の方が多かった。(図IV-15-3)

性・年代別に見ると、<女性/40歳代>の15.7%が最も多く、次いで<女性/30歳代>が13.2%、<男性/50歳代>が11.6%と続いている。一方、男性・女性共に20歳代の回答は5%未満であった。(図IV-15-4)

【意見を寄せた主な内容】 ※問35の上位5項目について、具体的な内容を抜粋

① 超高齢化社会に関すること

- ◆ ひとり暮らしの高齢者が地域で孤立しないようにするためにどうしたらよいか。自治会で出来ることはないか。子どもたちやお年寄りを犯罪から守るために出来ることを考える
- ◆ 高齢者が社会貢献出来る組織づくり
- ◆ 高齢者の社会貢献（支えられるだけの視点ではなく）
- ◆ 同居する高齢者との対処は判断が難しく、悩んでいる人も多いと思います。そのような人を対象とした相談も混えた学習があるとよいと思います。
- ◆ 老々介護の防止対策
- ◆ 高齢化、人口減少が進んだ場合のさまざまな社会問題と、その問題を解決するために、今、これから自分たちが何をすべきかについて考えること

② 少子化問題・子育て環境に関すること

- ◆ 転勤族が多く、知り合いの少ない中で子育てをしている方々が多数いるので、子育ての情報や友だち作りの場をふやしてほしい。
- ◆ 出産、マタニティー、産後、妊婦、子育てについて本人や社会が学べる機会を作るべき。
- ◆ 核家族家庭に対する子育て情報の発信方法について
- ◆ 少子化問題「女性の出産適齢期、高齢出産のリスクの周知」子育て「小1の壁」

③ 環境問題に関すること

- ◆ 福島原発問題
- ◆ 原子力発電が環境に与える影響度と、電気料金及び自家発電などに変えることの可能性。輸入超過によるエネルギー問題。

④ さまざまな社会格差への対応に関すること

- ◆ 雇用促進のための経営者対象講座、求職者セミナー
- ◆ 若年者の貧困について
- ◆ 正規雇用を促進させることで、経済問題や年金の支払わない若者や、子育て世代のゆとりや少子化問題すべてに影響があるのではと思います。
- ◆ 市民の教育水準と、地元企業に就業する労働者の教育及び、コンプライアンス等の能力の修得について

⑤ 規範意識・社会性の低下に関すること

- ◆ ご近所コミュニケーション。子供でも年寄りでも社会のために今自分ができること、今までお世話になったから今度はお返しに協力すること、など、今までの常識（昭和の常識）を復活させてほしい。
- ◆ 社会的モラルの欠如は年令を問わず悪化傾向であり、社会・地域全体で考え直す必要が大きい
- ◆ 道徳心やモラルといった意識について、考えてみる機会を設けるような課題
- ◆ 挨拶や礼儀について
- ◆ 子供（幼児）より道徳心の教を徹底することが大切